

薬草園の花だより

第20号

2019年（令和元年）12月3日発行

■第20号に寄せて

ついこのあいだまでは暑い日々だったのに、いつのまにかオーバーコートが必要な時期となりました。室内で静かに読書したりするには最適な候でもあります。皆様、いかがお過ごしでしたでしょうか。薬用植物園にてはあれほど旺盛に生育していた植物たちもすっかりおとなしくなってきました。地上部が無くなってしまった植物も多いです。今、外で咲いている植物はかなり限られており、これからは主に温室内の植物に目が向けられる時期と思います。是非、暖かい温室内で育っている薬用植物たちの様子も見にいらしてください。

植物を育てるといことは計画性が求められることだと思ふことがよくあります。来春のチューリップやヒヤシンス、クロカスなどを楽しもうと思ったら、今年の秋のうちに球根を植え付けなければなりませんし、果樹を育てて果実を収穫するつもりであればかなりの年月を必要とします。植物を育てるといことは結構、人生の訓練にも役立つのではと思っています。とはいえ、今は鉢植えとして花の咲いたものや実のなったものも出回っていることから、このことにはあまり説得性がないかもしれませんが……。

薬用植物園の温室外の南の圃場にては今、白いコギクが満開です。数株しか植えてないとは思えぬほど咲き誇っています。ヨメナなど、私たちが野山で見ているいわゆる野菊の類は *Aster* 属の植物ですが、観賞用として植えているキクの仲間の多くは *Chrysanthemum* 属の植物で、その先祖となるものは、ボタンやアサガオなどと共に奈良時代の末～平安時代の初めに遣唐使たちが薬用植物として唐からわが国にもたらしました。当時、薬用植物としてもたらされたキク・ボタン・アサガオは、現在の日本ではいずれも園芸植物と見做されているというのは大変に興味深いことだと思っています。（日本薬科大学薬用植物園長／船山信次）



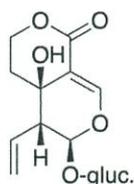
コギク

■今咲いています・見頃です

《センブリ》

リンドウ科のセンブリ (*Swertia japonica*) の花がもうまもなく終わります。見たい方は今がラストチャンスだと思います。咲いている場所は温室外の北側から北西側。センブリはリンドウの仲間の植物であり、小さな花ですが、よく見ると端正な形をしています。この姿はさすが、リンドウの仲間だなあとおぼやかせます。リンドウの花は本学の薬用植物園の圃場で11月中旬に撮影したのですが、残念ながら、今は、花がすっかり終わってしまいました。

センブリとは「千振り」から付けられた名前で、千回振り出してもまだ苦味があるというのでこの名前が付きましました。生薬名をトウヤク（当薬）といい、わが国独特の民間薬で、苦味健胃薬とします。細い葉の一枚を口に入れるとしばらくの間、苦味が抜けません。生えているセンブリの葉の味を試してみても結構ですが、葉は一枚だけにしてください。そして、決して他の植物と間違えないようにしてください。もし自信がなければ、知っている方に聞いてからにしようお願いします。



スウェルチアマリン

センブリに含まれている苦味の主成分はスウェルチアマリン (swertiamarin) などです。



センブリ



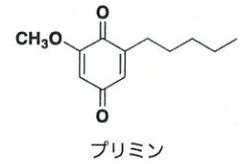
リンドウ

《プリムラ》

サクラソウ科のプリムラ (*Primula*) の「プリ」には、「最初の」とか「一番の」といった意味があります。本来は、春に真先に咲くところからこの名前がついたのでしょう。この頃は晩秋に花を付けている株が売られており、春を待たずとも花を楽しめます。以前は花茎を少し伸ばして咲くプリムラ・ポリアンサという品種が全盛でしたが、近年は花茎がほとんどないプ・ジュリアンという少し小型のものが好まれているようです。実はこの両者がかけあわされた品種もあり、このごろはこれらの区別が難しくなっています。この仲間の植物のプ・オブコニカ (*Primula obconica*)



プリムラ



にはプリミン (primin) という皮膚刺激物質が含まれています。その名前からの誤解なのか、プリミンがアルカロイドであると書いてある本が結構ありますが、化学構造をご覧になっておわかりのように、プリミンはアルカロイドではありません。

■最近の他の植物写真から

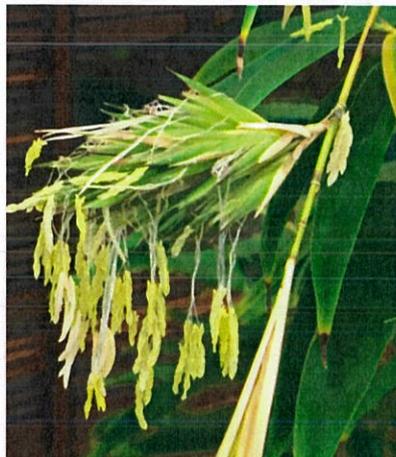
いつものように、薬用植物園内やそれ以外の場所にて最近撮影した植物写真から、いくつか選び出してみました。

先日、講演のために関西を訪れた際、合間に奈良の當麻寺に寄りましてところ、センリョウが見頃でした。センリョウの名前は千両から付けられたものです。この時期の植物は、花よりも果実や紅葉に見るところが多いものですが、今年はこの時期になって珍しい花を見ることができました。この関西出張に出発する直前、「池袋の百貨店の園芸店にて盆栽の竹の花が咲いた」というニュースがありました。出発前には時間が取れません。帰る時まで間に合うか気を揉みながら、帰り道は池袋経由とし、件の百貨店に駆けつけたところ、間に合いました。園芸店の方にこのタケの種類を聞いたところ、園芸領域ではヒメモウソウチクと呼ぶことがあるそうですが、実際にはハチクなのだとか。「自由に写真を撮ってください」とのことで、写真を撮りまくりました。なんとも一見素っ気のないイネ科の花ですが、タケの花は60年、100年、あるいは120年に一度しか咲かないと言われます。大興奮でした。小学生時代にタケ(種類不明)の花を見たことを覚えていますので、その花を見たのはまさに約60年弱ぶりのこととなります。

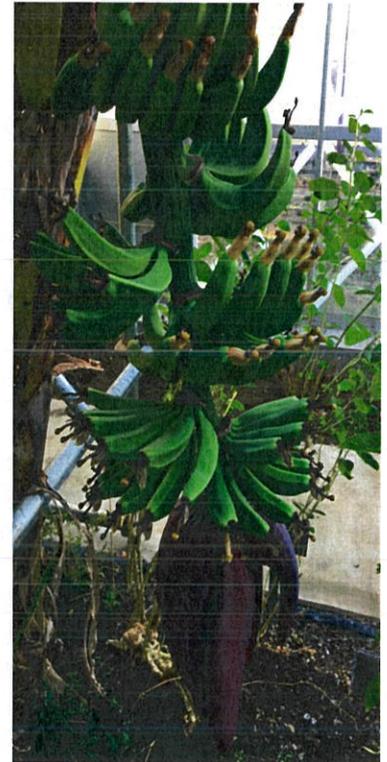
一方、本学薬用植物園の温室ではバナナが実りはじめました。今年は4本の幹に実を付けています。なかなかの迫力です。是非見にいらしてください。



センリョウ



タケの花



バナナ

■薬用植物園からのお知らせ

《今年もゆず茶を作ります》

早くも師走となり、薬用植物園温室内の「草楽館」にも小さいクリスマスツリーを飾りました。今年は例年と比較して薬用植物園内の柑橘類の結実がよくないようです。それでも若干の収穫ができそう。今年度も薬用植物園で収穫したユズを使ったゆず茶を作る予定です。いずれ御案内いたしますので、「ゆず茶召ませ」に皆さんどうぞいらしてください。

発行：日本薬科大学薬用植物園